

Rao, P. N. 1970. Symposium on Comparative Embryology of Angiosperms 41: 136. Sathianathan, K. N. 1974. Post fertilization development in *Euphorbia corrigloides* Boiss. Proc. 61st Ind. Sc. Congr (Nagpur): Pt. III Abstr.: 26. Souèges, R. 1924. Embryogénie des Euphorbiacées. Développement de l'embryon chez l'*Euphorbia esula* L. C. R. Acad. Sci., Paris, 179: 989-991. Souèges, R. 1925. Développement de l'embryon chez l'*Euphorbia exigua* L. Bull. Soc. Bot. France, 72: 1018-1031. Weniger, W. 1917. Development of embryo sac and embryo in *Euphorbia preslii* and *E. splendens*. Bot. Gaz., 63: 266-281.

* * * *

トウダイグサ科は約 280 属、7300 種を含む熱帯中心として分布する大形の科であり、外形、生活型上の変化も多い。この科のうちには胚囊の型が 8 個、胚発生の型が 5 個あることが知られている。*Euphorbia* の中、大部分の種は知られている限り Onagrad 型の変型を示す。しかし、*E. peltata*, *E. Preslii* はおのおの Chenopodiad 型、Piperad 型を示すことが報告されている。今回は、*E. marginata* Pursh について詳細に研究し、これが明かに Onagrad 型の別の変型を示すことが分った。

□The Kew record of taxonomic literature relating to vascular plants for 1971. pp. 394 Her Majesty's Stationery Office, Atlantic House, Holborn Viaduct, London, EC1P 1BN £ 14 net. 略称キューレコード 1971 はこの 9 月に出版された。従来 5 年毎にまとめて種以上の新名は Index Kewensis として出版されて来ているが、その範囲を越えてもっと深くもっと広く、そしてもっと早く報道しようといううねらいから毎年発行されることになった。画期的のものといえよう。この本はその精神に従って 1971 年中に出版され、キューブ植物園、大英博物館及びオックスフォードの Commonwealth Forestry Institute に送られた文献からチェックされたシダ類、裸子被子植物をカバーする全分類にわたるもので、なお命名規則、染色体、ケモタクソノミー、解剖、形態、花粉、胚、発生等までを含めて、文献を網羅することにつとめたという。そして今回は 6457 個の文献がリストされているから大変な努力であった。然し何といっても重点は各科別に整頓された部分である。文献名、出典はもちろんだが、内容の重点や図の有無など、それに使用国語の種類まで添記されており、新群は品種に到るまで列記されているし、夫々には産地が世界を 7 地区にわけて番号表記もされているなどまさに親切である。このようなものがこれから毎年出されるとなれば、便宜この上もないことで、一層学問の交流に大きく貢献することであろう。英国人の切実な努力に敬意を表するものである。日本人の姓名は読みにくいとみえて、Tatsuyuki, O. など姓名が逆になつたものがあるし、学名にも誤りが見られるが、これは直してほしい。（前川文夫）